令和７年度　授業計画

ビジネス科　３年Ｄ組

教　　科	商　業	科目(単位)	管理会計（３単位）	選択相手科目	ソフトウェア活用
使用教科書	管理会計（ＴＡＣ出版）				
授 業 形 態	通常授業・　分割授業　・　Ｔ　Ｔ				

※分割授業とは、クラスを少人数クラスに分割して授業を行うことを意味します。
※ＴＴ（チームティーティング）とは、複数の教師がチームを組んで指導にあたることを意味します。

１　科目の目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、経営管理に有用な会計情報の提供と活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
（１）管理会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
（２）会計情報を活用した経営管理の方法の妥当性と課題を見いだし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。
（３）適切な経営管理を行う力の向上を目指して自ら学び、経営管理に有用な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

２　科目の内容と授業の進め方

・予算編成、事業部制意思決定等の新しい内容を学習します。
・工業簿記・原価計算では、直接原価計算、短期利益計画、予算編成、予算統制、活動基準原価計算、戦術的意思決定、戦略的意思決定等の新しい内容を学習します。
・テキストに準拠した練習問題で解き方を学習した後、過去問題を中心に、差異分析をします。
・１２月に全商管理会計検定を受験目標とします。

３　学習の方法

・板書事項はノートに写し、説明を聞いて自分なりに言葉を補い整理し、理解しましょう。
・専門用語の意味を理解し、使い分けられるようにしましょう。
・理解できないことは、そのままにしないで必ず質問しましょう。
・毎時間、課題を出しますので、授業で習ったことはその課題で必ず復習しましょう。
・演習を行うときは、問題をよく読みポイントを把握して、要領よく解けるようにしましょう。
・演習を行いながら、自分の苦手分野を把握し、その分野の演習がスムーズにできるまで、何度も繰り返し解きましょう。
・電卓の機能を駆使し、少しでも早く計算ができるように工夫しましょう。

４　課題・補習について

・随時、問題集の点検を行います。
・課題の点検を行います。
・１２月に全商管理会計検定を受験するため、必要に応じ補習を実施します。

５　この授業で取得可能な資格（検定試験）

・全商管理会計検定

６　観点別学習状況の評価のポイント

知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
管理会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	会計情報を活用した経営管理の方法の妥当性と課題を見いだし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応策を考案している。	適切な経営管理を行う力の向上を目指して自ら学び、経営管理に有用な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

ビジネス科　３年Ｄ組

教　　科	商　業	科目(単位)	管理会計（３単位）	選択相手科目	ソフトウェア活用

７　年間の学習計画

月	単　元　名	学　習　の　内　容	評価方法 （課題等）
4 5	第１章　管理会計の目的 第２章　管理会計と原価計算 第３章　管理会計に有用な原価情報 第４章　原価予測の方向	・管理会計と財務会計の目的の違い及び企業が発展する上で経営管理が重要な役割を担っていることについて学習する。 ・経営管理の視点から捉えた管理会計と原価計算との関係について学習する。 ・経営管理の視点から捉えた原価分類について学習する。 ・原価予測の方法に関して、費目別精査法、高低点法、最小自乗法について学習する。	行動観察 問題集点検 プリント点検 小テスト **前期中間考査**
6 7 8	第５章　ＣＶＰ分析と感度分析 第６章　利益の最大化 第７章　標準原価計算 第８章　直接標準原価計算	・安全余裕率、損益分岐点比率及び経営レバレッジ係数の計算方法と活用方法について扱う。また、販売価格、販売量、変動費、固定費などの変化が営業利益に及ぼす影響について学習する。 ・単一及び複数の制約条件がある場合を想定して、営業利益を最大にする販売数量の組合せを求める方法について学習する。 ・標準原価計算における仕損、減損、原料配合差異、原料歩留差異、労働ミックス差異及び労働歩留差異について学習する。 ・標準原価計算による直接原価計算と実際原価計算による直接原価計算の違い、標準原価計算による直接原価計算を採用した場合の差異分析を伴った損益計算書の作成方法について学習する。	行動観察 問題集点検 プリント点検 小テスト
9 10	第９章　企業予算の編成 第 10 章　予算統制	・企業予算の意義及び予算編成の手続について扱う。また、四半期の予想現金収支を基にした予定貸借対照表と予定損益計算書の作成方法について、具体的な例を用いて学習する。 ・予算統制と予算実績差異分析の意義及び全部原価計算と直接原価計算における予算実績差異分析の方法について扱う。また、販売の組合せの変化による差異の分析方法に関して、同種製品の予算実績差異分析について学習する。	行動観察 問題集点検 プリント点検 小テスト **前期期末考査**
11 12 1 2	第 11 章　経営意思決定の概要 第 12 章　業務的意思決定 第 13 章　構造的意思決定 第 14 章　企業の組織構造 第 15 章　業績測定の方法 第16章　目標原価計算 第17章　活動基準原価計算 第18章　品質原価計算	・企業が発展していく上での経営意思決定の意義、経営意思決定の過程及び業務的意思決定と構造的意思決定の特徴について学習する。 ・差額原価収益分析として、特別注文引受可否の意思決定、内製か購入かの意思決定及び追加加工の要否の意思決定の方法について扱う。また、機会原価の概念について学習する。 ・貨幣の時間価値及び法人税を考慮した設備投資の意思決定について扱う。なお、設備投資に関しては、取替投資及び拡張投資について学習する。 ・事業部制組織と職能別組織の特徴について学習する。 **全商管理会計検定** ・責任センターの損益計算書を作成し、投下資本利益率、残余利益、資本コスト率を用いて責任センターの業績測定を行う方法について学習する。 ・活動基準原価計算の意義と特徴、製品原価の計算方法及び活動基準原価管理の概要について学習する。 ・品質原価計算の意義及び品質原価を把握するための予防・評価・失敗アプローチの方法について学習する。	行動観察 問題集点検 プリント点検 **後期中間考査** 小テスト **学年末考査**